

古代の九州と東アジア

西暦698年から926年まで、「渤海(ぼっかい)」という国が朝鮮半島北部から中国東北部、ロシアの沿海州に存在していました。この渤海国は日本海を介した隣国、日本との交流を求めて使者を送り、日本もまた使者を送るなど長い交流の歴史がありました。

石井先生は、この渤海国の研究の専門家です。古代の東アジアは大国である中国(隋・唐など)の勢力が非常に強く、周辺の国はその政治的・文化的な影響を受けていました。この状況は、現在の東アジアにもあてはまります。

私たちの住む九州は日本の中でも大陸に最も近く、古くから大陸の文物が入り、大きな影響を受けました。温故知新、島原にご縁のある石井先生のお話から、九州と東アジアの歴史を見直してみませんか。

日時 平成20年6月7日(土)午後2時～4時

場所 杉谷公民館大ホール(島原市宇土町)

入場料 無料

講師 石井正敏先生(中央大学文学部・大学院文学研究科教授)

石井正敏教授略歴

- 昭和22年(1947年) 神奈川県横浜市生まれ
- 中央大学大学院博士課程終了後、東京大学史料編纂所助手・助教授を経て現在、中央大学文学部・大学院文学研究科教授
- 博士(歴史学)
- 専攻 古代・中世東アジアの国際関係
- 平成14年～17年 日韓歴史共同研究委員会(第1次)委員
- 主要著書 『日本渤海関係史の研究』(吉川弘文館 平成13年)
『東アジア世界と古代日本』(山川出版社)

主催 島原市教育委員会・島原文化連盟 **後援** 島原新聞社

お問い合わせ 島原市教委育委員会社会教育課 電話68-5473